

# ゆっくりのんびり

第4号

2021年 7月

発行者：乾 哲郎

ユイ：あ～あ、テスト返ってきたけど、やっぱりダメだった。

レイ：次のテストでがんばって取り返せばいいじゃない。

ユイ：でも、ユイ、生まれつき頭よくないから、がんばってもどうせいい点取れないんだよね。

レイ：そんなことないでしょ。成績ってがんばって勉強したらよくなると思うけど。

ユイ：そうかなあ。頭がいいか悪いかって、遺伝で決まるんじゃないの？どうなの、テツロー？

テツ：知能は遺伝か環境か？この問題は昔からずいぶん議論されてきてるんだ。双子を使った研究がよくやられているんだよね。

ユイ：双子の研究？どんなことやるの？

テツ：簡単に言うと、一卵性の双子は遺伝的には基本的に同じなんだけど、その二人が環境の違いでどれくらい違ってくるかという研究なんだ。何年もかけて何組もの双子について調査するんだよね。



ユイ：で、どんな結果が出るの？

テツ：確かに、一卵性の双子は、知能もかなり似通ってるんだ。

ユイ：やっぱり、知能は遺伝なんだ。

テツ：いや、そう簡単じゃないんだよね。一卵性の双子だけど、何かの事情で別々のところで育てられた人たちがいるんだけど、その人たちを調べてみると、一緒に育てられた双子よりも、知能の差が大きかったんだ。

レイ：遺伝的に同じような二人でも、育てられた環境で結構違ってくるってことね。

テツ：そうだね。知能というものは、ある程度遺伝による部分はあるけど、育ってきた環境によってもかなり違ってくる。これが、今の定説なんだ。

レイ：どんな環境だと、知能が伸びるの？

テツ：まわりのおとなたちがいろいろ話しかけてあげたり、一緒にいっぱい遊んであげたり、子ども同士でもいっぱい遊ぶことはいいみたいだね。視覚や聴覚、触覚などいろんな感覚に対する刺激がたくさんあると脳も発達するっていうのはあるみたいだね。

ユイ：確かにそういうのはありそうだね。でも、ユイも小さい頃からいっぱいテレビ見てて、刺激受けてたのになあ。

レイ：テレビはダメなんじゃないの？

テツ：そうだね。ただ、刺激を受けるだけじゃなくて、刺激に反応して、その反応にまた相手が反応してくれて、みたいなやりとりが大切なんじゃないかな。

ユイ：ユイの親もそんなふうにしてきてたら、ユイももっと勉強ができるようになってたのになあ。

テツ：今からでも遅くないよ。もっとも中学生だから、まわりから刺激を与えてもらわなくても、自分で自分を刺激すればいいんだけどね。

レイ：でも、知能って、子どもの頃に大体決まっちゃうんじゃないの？

テツ：そんなことはないよ。たくさんの学者や研究者、文学者や芸術家たちが何歳頃に大きな業績をあげているかということ調べているんだけど、そのピークは50歳代で、40代～70代の間はそれほど変化がなかったんだ。日常的に頭を使っていると、知能は伸びていくし、結構歳を取っても衰えないみたいだね。

ユイ：へえ～、じゃあ、ユイなんてまだ余裕で間に合うんだ。大きくなったら、『Qさま!』とかに出られるかな？

